

野鳥公園ラウンジカフェニュース



2013年4月

野鳥公園ラウンジカフェとは

多くの渡り鳥が飛来するなど豊かな自然環境を有する博多湾、その東に位置するアイランドシティに、約12haの野鳥公園の整備を予定しています。野鳥公園ラウンジカフェは、住民や学生など市民をはじめ、専門家、事業者、NPO、行政など多様な主体が野鳥公園の整備や活用、運営に向けて語り合う場です。野鳥公園が整備されるまで継続して実施する予定です。



野鳥に会いに行くバスツアー報告



前回のニュースで募集した野鳥に会いに行くバスツアーには、66名の応募（競争倍率1.6倍！）があり、厳正なる抽選の結果選ばれた41名の皆さんとうらかな小春日和の中、バスに揺られて「きらら浜自然観察公園」へ行きました現場ではインタプリター（解説員）の説明を聞きながら、園内を散策し、様々な野鳥に出会うことができました。

次回案内

第4回 野鳥公園ラウンジカフェ + 「目を閉じておいでよ～野鳥公園予定地視察ツアー」

今回のラウンジカフェは、いよいよ野鳥公園の絵を描いていくために、細やかな計画条件を議論していきます。第3回で皆さんに議論していただいた内容について、エコパークゾーンの中での野鳥公園の位置づけや、個別の機能の必要性に至るまで、様々な条件をテーブルの上を広げて整理したいと思います。午前中は実際の整備予定地の見学ツアーもあります。みんなで目を閉じて、野鳥公園の、アイランドシティの将来像を想像しましょう。

そして、たくさんの仲間との出会いを通じて、新しい空間、新しいコミュニティを描いてみませんか？

日時 2013年5月25日（土）10:00～11:30・予定地視察（定員50名：先着順）
12:30～15:00・ラウンジカフェ

場所 ぐりんぐりん北ブロック：アイランドシティ中央公園内 福岡市東区香椎照葉四丁目

プログラム 計画のための条件整理 「野鳥公園に求められるもの」

参加者募集！！

～ダイアログ（対話）を重視した様々なファシリテーション手法を活用して、楽しくかつ話しやすい雰囲気が進めます～

- 参加費：無料 どなたでも参加できます！
 - 主 催：福岡市環境局
- 申し込み締め切りは5月17日（金）です

◆参加を希望される方は、電話、FAX、メールのいずれかで、氏名、住所、連絡先（電話番号もしくはメールアドレス）を添えてお申し込みください。グループやご家族で参加される方は、全員の人数をお伝えください。

お申し込み先/お問い合わせ先 福岡市役所 環境局 環境調整課 野鳥公園整備担当 【担当：名川】

TEL 092-733-5389

FAX 092-733-5592

E-Mail nagawa.m02@city.fukuoka.lg.jp



野鳥が飛来する空間で

あなたは、誰と、何をする？

第4回 野鳥公園ラウンジカフェ

「目を閉じておいでよ～野鳥公園予定地視察ツアー」

日時 2013年5月25日（土）10:00～11:30・予定地視察（定員50名：先着順）
12:30～15:00・ラウンジカフェ

場所 ぐりんぐりん北ブロック：アイランドシティ中央公園内

プログラム 計画のための条件整理 「野鳥公園に求められるもの」

ファシリテーターの紹介・・・田坂 逸朗 氏
(コミュニティ・ワールドカフェLLP代表)

年間約250のワークショップに登壇するファシリテーション・プロデューサー。特定非営利活動法人ローカルアントレプレナススクール代表理事、ワールド・カフェ・コミュニティ・ジャパン企画運営委員などを務めるほか、2011年の福岡市「アジアのリーダー都市ふくおか！プロジェクト」ワールドカフェアクションプロデューサーなど、まちづくりに関するプロデュースも実践されている。



6月16日（日）

第5回ラウンジカフェ

8月

第6回ラウンジカフェ

10月

基本計画案の提示
オープンセッション
第7回ラウンジカフェ

11月

第8回ラウンジカフェ

8月

基本計画の公表
第9回ラウンジカフェ

第3回野鳥公園ラウンジカフェの振り返り

今年度第3回目の開催は、前週に「野鳥に会いに行くバスツアー」を実施したこともあり、新たな参加者も交えて始まりました。

今回のテーマは
**みんなで作ろう
「〇〇ができる野鳥公園」**
です!

今日のテーマ

ここは
皆が対等な立場で話し合える場なんだね!

いつものようにファシリテーターは田坂さんです。

Q: なぜファシリテーターが必要なの?

A: ファシリテーターとは、中立な立場で進行していく人をさします。行政も対等な立場で、内容や課題などを皆と一緒に考えていきたいと思っているからです。

班分け 今日は6つの班に分かれて話し合いを行います。一つの班に一人ずつアドバイザーが加わります。まずは、アドバイザーから専門分野と理想とする野鳥公園について話題提供がありました。

福岡あるいは日本の次世代を担っていく子供たちが色々な自然を体験できる環境教育のエリアとして、そこにいくと面白いと思ってもらえるような公園ができたら良い。

田村アドバイザー
専門: 自然環境・野鳥調査

いままでの公園を見てみると、作ったあとは放置されている公園が多々ある。作った後も使われ続け愛され続ける公園にしたい。特にソフトを充実させる仕組みを作りたいと考えている。

名川
専門: 市役所担当者

アイランドシティ内では子ども病院が気になっている。子供たちがどう過ごし、大人になった時にここが本当に思い出深い場所になるかどうかという事を考えていきたい。

田北アドバイザー
専門: まちづくり

参加者のみなさんは、自分の興味があるテーマの班に集まって、話し合いをスタートしました。

包清アドバイザー
専門: 緑地環境設計・景観計画

自然は、放置しておくのではなく、都市の中では、人と一緒に育んでいくという側面がある。人と自然が手を取り合っている野鳥公園、いい自然のあり方を考えていければいい。

甲斐田アドバイザー
専門: マーケティング

NPO 福岡湿地研究会として、8年間毎月IC内の潮流調査を行ってきた。高度成長期以降降られた環境をIC内に作れるかというビジョンが見えたらいい。

服部アドバイザー
専門: 干潟生物・野鳥保護活動

班内会議

Q: 野鳥公園の計画づくりは、なぜ対話形式で行われているの?

A: 野鳥公園は、アイランドシティのまちづくりの方向性のひとつ、「みんなで関わる」を実践する場です。

計画から運営まで、様々な人が積極的に参加できる公園にしていきましょう!!

野鳥公園で大切にしたい事は何か? 班ごとに話し合っ、3つ程度に絞ってください。

全部必要だね。この中から3つに絞れるかな?

「子どもが遊ぶ公園」って大切ね!

今日の目標

アイランドシティ全体の航空写真

エコパークゾーン全体の航空写真

野鳥公園の敷地の白図

落書き可能なテーブルクロス

今日の目標は、**野鳥公園の敷地の空間構成を考えること**です。

おしるべアイテム:



32枚のハーベストカード (前回までの意見を整理したもの)

マーカー

開催日時: 2013年3月16日(土) 13:00~16:00 会場: あいれふ 参加者: 49名

公園案づくり

どんな空間にしたいか敷地白図に案を描きこんでいきます。

班で結束したところで空間構成づくりです。大切にしたいコンセプトをどのように空間構成に活かしていくのか? 皆、真剣に話し合います。

代表者会議

各班の代表が班で決めた案について発表し合い、情報共有を図ります。

人と野鳥の境界部分は...

なるほど!!

共感できる所もあるわね!

我が班で話し合ったコンセプトは。。空間の使い方は。。

班内再会議

代表会議での意見を受けて、再び班で話し合い、情報整理を行います。

他班の意見も参考にして、もう一度、班内で話し合ってみましょう。

新たなアイデアを加えて...

※余りきつう博多野の「アオサ」が入ったカリムとう

まとめ

ふたたび代表者が集まって各班の意見を発表した後、今日の成果として全員の意見をひとつにまとめた方針図が出来ると予定でした。

散歩コースがほしいな。

最後に各班の意見をひとつにまとめて、一枚の図面に描いていきます!!

海を望む観察デッキがほしい!

人はどこまで入れるようにしますか?!

環境教育の場所としてビジターセンターは必要!

突のなる木を植えたらどうだろう?

来る人が何をしたいのかが重要なポイント! 渡り鳥? 海辺の生物?

干潟ができればカニや貝の観察ができるね。

海水ゾーンと淡水ゾーンに分けたら?

手を加えない空間も必要では?

次回以降に向けて

今回は、各グループで大切にしたいと思う野鳥公園のコンセプトを共有することができました。しかし、整備イメージを描くためには、もう少し条件などの整理が必要ですが、野鳥公園の使い方についての大まかな方向性については、参加者全員で共有することができました。次回のラウンジカフェでは、野鳥公園とエコパークゾーンの関係や果たすべき役割、そのための機能をみんなで議論し、具体的なプランを描くための条件を揃えたいと思います。

次回に向けての整理事項

- ここに来る人が何をしたいのかというのが重要なポイント。渡り鳥を見たいのか、自然が変化していく姿を見たいのか、海辺の生物を見たいのかということが具体的な機能として何が必要かが見えてくるのでは。それが、子供たちに何を見せたいかということにもつながる。

- 拠点を設けることは共通意見であるが、どういった施設にするかを議論するためには、まだ情報が必要。
- 干潟ができれば公園の中でカニや貝の観察ができる。これができる夏場の活用も期待できるので、年間を通して公園の利用が見込める。
- 環境によって生息する生物が違うので、それを人工的に求める場合この面積で大丈夫なのか。12haの中に淡水、汽水、海水は無理だろう。

- 公園が出来る前からコミュニティを作って、住民や専門家などのそれぞれの立場から携わることができるようにしたら良い。野鳥公園をきっかけに人と人との関係が構築できる公園にすることも必要。
- ゆっくり作っていくという観点からも、最初から多くの人が携わることによって、プログラムなどを作りながらも同時に自分たちで考えて、自分たちで公園を守っていくという意識ができることは大切。

■野鳥公園の位置づけ
野鳥公園はエコパークゾーンを補完するための空間なのか? それとも野鳥の生息環境を可能な限り再現した空間なのか?
■何を見る、何をする空間なのか?
野鳥公園の中で野鳥を(十分に)観察したいのか? 周辺の観察ポイントへの入り口であり情報発信拠点か?

■できることできないことを整理する
これまでに提案された様々なアイデアの中で、できるものできないものを明確にする。できるものの中で、コンセプトを実現できるプランを検討していく。

今後検討していく事項

■新しい公園の運営「パークマネジメント」の検討
野鳥公園のみではなく、IC中央公園やIC全体を含めたエリアの中で、様々なコミュニティが活動し、イベントの企画や維持管理などを共働で行っていく仕組みを検討していく。